

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195800016		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム ふるさとの丘		
所在地	夕張郡長沼町東2線北15号		
自己評価作成日	令和3年11月9日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195800016-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地、庭には東屋があり休憩場所となっております。パークゴルフや野菜の収穫、秋には、栗ひろいなど、楽しめます。
ホーム内の共用スペースは広く、ゆったりと過ごすことができます。
コロナ禍で、外出、面会の制限がありますが法人より遊具などが支給され、レクリエーションを楽しまれています。
スタッフがお茶会を開いたり、ストレスをためる事無くホーム内は笑顔が絶えません。入居様が、安心して自分らしい生活を送れるよう支援に努めています。
コロナ感染予防の為、現在は中止していますが、毎月第四日曜日に地域お茶の間”ライスカレーの会”として地域の皆様が集える場を提供し、夏祭り、クリスマス会などにも参加して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長沼町北部の自然豊かな環境に建つ1ユニット9名の事業所で、広大な庭や畑もあり屋内も広々としている。地域交流室も兼ね備え、地域の一員として近隣住民と家族を含め良好な交流を図っている。事業所専用のパークゴルフ場でのプレーや桜、栗、稲穂の実りを見ながらの散歩や脳トレを行うことで認知能力および身体機能の低下を予防している。家族へ毎月、個別のお便りや電話にて医療と生活状況の報告をしている。食事面では利用者の好みにメニューの食材を変更したり、行事の食事に理事長より寿司やオードブル等が頻繁に差入れされている。介護計画はサービス担当者会議で3か月ごとのモニタリングとアセスメントを繰り返し、内容と結論を会議で話し合い検討を重ね上げている。利用者が重度化した場合の対応では、事業所では終末期における看取りも対応しており、医師や看護師と連携を取りながら利用者や家族が望む暮らしが継続できるか医療機関や介護施設等の移行も含めて一緒に検討し支援をしている。感染症の流行時においても事業所独自の季節ごとの楽しみが持てる行事が多く、職員が利用者へお抹茶を立てるお茶会もあり、賑やかな雰囲気や暮らしている。居室にはエアコンが設置されており、利用者や家族の好みの設えて自分らしく安心して過ごすことができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的(ミーティング時)に理念を唱え、その意義や役割を職員全員確認し共有できるよう努め実践へと繋げています。ホールに理念を掲示して個々で確認に努めています。	理念はパンフレットや事業所のリビングに掲示しており、職員の採用時に説明をしている。理念にあるように【地域と共にゆったり楽しい自由な暮らし】を実現するために、職員が理念を共有し日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り大会に招待され参加されたり、ライスカレーの会などコミュニティーの場としてご利用いただいていたのですがコロナ対策の為全て中止しています。	事業所周辺の散歩や玄関前のベンチで日光浴をする際に住民と挨拶を交わしている。事業所内の地域交流室で住民を招いての行事があったが感染症が落ち着くまでは延期になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修などを行い、認知症の方々への理解、身体面のケア、精神面のケアなど日々の実例を基に相談があればお話しさせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策の為運営推進会議はおこなっていませんが、地域の方やご家族様のみえた際、または、電話などで近況報告、活動内容を報告しそこで頂いた意見を参考にサービスへ繋げられるよう努めております。	半年ごとに開催していた運営推進会は、前年は1度開催し事業所の定期報告以外に感染症について議題を定め、参加できなかった家族にも議事録を郵送していた。それ以降は感染症予防のため参集しての会議は延期をしている状況にある。	運営推進会議で今までのような話し合いや報告が感染リスクを避けるため参集できない場合に、どのような方法や形式で運用し再開できるか検討することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長沼町の実施するサービス調整会議へ出席し他事業所とサービスを含めた実情や現状、困難事例等を報告し合い、様々な専門分野の方からアドバイスなど受け十分な連携を図り、関係を築いています。	町で行う会議に出席し行政からの情報を収集しており、地域包括支援センターや、町内の福祉関連事業所と連携をしながら情報を交換している。保護課の職員が行う確認調査には書面で回答しており電話で情報を伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為をマニュアル化し共通の理解へと努め、玄関に施錠せず徘徊を見守る、薬にできるだけ頼らない睡眠の確保など身体拘束の排除に積極的に取り組んでいます。身体拘束廃止委員会の実施。	高齢者虐待防止に関する指針、身体拘束廃止に関する指針、身体拘束排除マニュアルを用意している。3か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催し、事例をひもとき学んでいる。接遇マナーや高齢者虐待の研修に参加し、日常的に身体拘束をする必要のないケアを行っている。鍵は夜間のみ防犯目的で施錠し日中は自由に出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、事業所全体で共通の理解をもって虐待が見過ごされることのないよう努めており、その防止についても力を入れています。ホームでのミーティングの際も身体拘束、虐待の防止について話し合いをしています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会があったが、これまでその制度を利用するに至るような事例はありませんでした。必要性があると判断した際には、それらを活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく文書も用い十分な時間をかけ説明を行い、不明な点が残らないように納得し同意を得てから契約を結んでいただくよう配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族や外部者もみえる行事や運営推進会議等の際に意見、要望があれば話し合いの場を設け改善点があれば早期に対応するように努めています。現在はコロナ禍の為、電話などで情報交換を行っています。	事業所での暮らしぶりを個別に書いたお便りを家族へ出しているほか、電話やメールで連絡を取り合っている。家族からの意見は連絡ノートに記録し、確認することで職員が共有をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい職場環境をつくるためいつでも意見を言える雰囲気や関係に努めミーティングなどで意見、提案を出してもらい、反映されるように話し合っています。	夜勤明けの申し送りや日々の勤務中に意見や悩みを聞いている。法人の合同研修会で職員の意見が出され、意見要望を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、やりがいや向上心を持てるよう個々の能力に合った責任ある仕事を任せ、それに見合った給与等を含めた労働条件の整備に努められています。事業所を訪問し職員や利用者との交流を心がけておられます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員がケアの質の向上を図れるよう研修の機会を確保していただき、実践へと繋げることを推進されています。コロナ禍の為、外部の研修は、ありません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上やネットワークづくりを目的に同業者主催の研修や勉強会へ参加させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご本人が抱えている問題や不安へ耳を傾け主体性を尊重し安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご家族の抱えている問題や不安等を伺い信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのような支援を必要とし望んでいるのかを幅広い視野で見極め、柔軟な対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を介護されるだけの弱い立場に置かず、人生の先輩、互いに共生するものとして相談したり頼ったり関係性を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人を支援する上でご家族へも協力を求め、コロナ禍ではありますが、通院の同行などご家族参加型の支援となるよう努めています。お便りなどで近況や良いエピソードなどお伝えしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出などは制限されていますが、電話や手紙をなどで関係が途切れないように支援しています。	感染症予防対策として面会や外出に一部制限があるが、地方の兄弟と電話のやり取りや手紙に返信を出すことで関係が途切れないように支援をしている。孫から利用者の好みの本が届くなどの交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係、利用者の個々の性格など把握し孤立することなく関わり合い支えあえるような支援に努めています。テーブル席などはトラブルや訴えがあれば早期に随時変更しています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等による退所後も定期的にご家族と連絡を取りつつ経過を見守り、状況に応じ相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉や表情などからご本人の意思を推測するなど、希望や意向の把握に努めています。	自己表現が出来る利用者の割合が多いため、日々の会話で希望を聞いている。食事のメニューで使う食材を変更したり、農道に白鳥を見に行くなど、利用者の意向を把握し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	限りある資源の中で、生活歴をしっかり確認し様々な生活習慣をできるだけ変えることなく生活スタイルを維持、継続出来るような生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の確認申し送りノートの活用で生活リズムを理解し行動表情などから現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の場だけでなく日々の個人記録とご本人やご家族の意見等も参考に、ご本人の現状に即した介護計画となるよう努めています。	個人記録に書き留めた日々の変化や気づきと、モニタリングで職員の意見を収集し本人や家族の意見も確認してサービス担当者会議でプランの見直しを行っている。3か月ごとにフェイスシートとアセスメントシートも更新し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を介護計画に照らし合わせながら記録し、職員間で連携をとり情報を確認しながら実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ、既存のサービスに捉われない柔軟な発想で対応するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを提供できるよう地域資源を一人ひとりの暮らしへ結び付けることに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、それまで通院されていたかかりつけ病院で希望の医療を受けられるよう、支援に努めています。専門的な治療は、専門医療機関など状況に合わせた診療体制を取っています。	町内2つの内科医療機関へ定期受診をしており、町外から内科往診を受けている利用者もいる。看護師が毎週訪問し健康管理をしている。歯科の訪問診療で義歯の調整や治療を受けている。	

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様が適切な診療、看護を受けられるよう看護職員へ一人ひとりの情報を的確に伝えることに努めています。事業所内の訪問看護師とは密に連絡、相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、情報提供を行い安心して治療を受けられるよう、また認知症の進行が懸念されるため可能な限り面会をし、関わりを行い早期に退院できるよう、病院関係者と面会時や電話での情報交換、相談に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針について契約書に明記されており、実際に状態が悪化しつつあり回復が見込めない可能性があるため医師より診断された場合や想定される場合、ご家族や医師と今後の方向性について協議し、最良な援助につながるよう努めています。	重度化や終末期の対応について契約時に説明し、同意を得ている。本人や家族の希望を確認しながら重度化や終末期が近くなった場合は、事業所での看取りを含め他の医療・福祉機関への移行についても話し合い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応等の訓練を行い、万一の場合に備えています。以前受講した心肺蘇生、AEDの使用方をミーティング内で確認しています。当ホームにもAEDを設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	万一の場合に備え日中、夜間想定ともに行っています。コロナ感染予防の為消防職員の出向はありませんが訓練通知書届出時に避難、誘導のアドバイスを頂いています。	年2回、昼夜想定火災訓練を行い、訓練風景を撮影し記録を残すことで次回の災害訓練に活かしている。災害時の避難先で感染症対策に必要なマスク等の備蓄品も揃えている。	令和6年4月から義務化となる自然災害発生時における事業継続計画(BCP)を策定するための検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄などは自尊心を損ねないよう声のトーンを抑えるなど意識して声がけ、個々の力に応じた促しの対応に努めています。	今年の法人合同研修会は「言葉遣い・マナー・接遇」のテーマで全職員が参加できるよう態勢を整え学びの機会を講じた。親しみからふと出る言葉もあるが、内容で気になった場合は管理者が注意し改善に向けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常から思いや希望を表現しやすい環境づくりに努め、判断、決定の機会を捉えて生かすよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることが多いが業務優先ではなく、利用者一人ひとりのペースで希望にそった生活を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に一緒に洋服を選んだり、ひげが伸びていないか、髪が乱れていないか等に配慮しています。2ヶ月に一度訪問美容師が来訪しています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを聞きながらメニューを決めたり簡単な調理、準備、下膳、食器洗い等ができる方についてはお手伝いをお願いし共同作業するよう努めています。	法人の栄養バランスのとれた季節感ある献立で彩りよく提供している。利用者は食事一連の作業に出来るところで携わっている。利用者のリクエストメニューにも応じている。行事の際に理事長からオードブルや生寿司、幕内弁当などの差し入れがあり好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じメニューでも一人一人の好みや状態に合わせて、食材、硬さ形状等に配慮し一日の食事、水分が適正量、確保できるよう、一人ひとりの状態、習慣等に応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後の3回、本人の状態に合わせた口腔ケアを心がけ、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し、利用者の仕草、落ち着かない様子などのサインを読み取り、排泄の促し、誘導など自立支援に努めています。	日常生活チェック表に排泄・水分・食事を記録し、排泄における健康状況を総合的に確認する仕組みを設けている。利用者全員が自らトイレに行くことが出来るが、排泄用品の装着確認などでさりげなく介助に入る場合がある。夜間帯も利用者が行きたい時にトイレに通っており、安全確認等の見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事や水分摂取、適度な運動を促すことで予防に繋がるよう努めています。午後の茶話会には果物ヨーグルトを必ず提供しています。研修を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴に当てられる時間の範囲内で、できる限り一人ひとりのペースや希望にそった入浴を提供できるよう努めています。入浴できないときは清拭、足浴を実施しています。	水・土・日曜日を除く午後の時間帯に週2回の入浴を支援しており、受診等により土日も調整し対応している。億劫がることなく入浴を好んでいる様子である。全員が1人での入浴が可能であるが、染髪と背中洗身は介助し職員との個別のひと時を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握した上で、その時々状況に合わせて臨機応変に対応し、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用や用法、容量等について正しく理解し、日々の状態観察に努めています。不明な点があれば随時薬剤師に連絡し相談を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが充実した日々を送れるよう役割を持っていたり、誕生会などに、祝辞を述べる方が決まっています。。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、庭を散歩したり、東屋で涼んでいます。玄関先で日光浴していると地域の方が通り挨拶を交わします。	天候の良い季節は戸外に出て楽しむ機会をふんだんに設けている。周辺の散歩や東屋での一服、桜や栗の木を観察したり、畑でさつま芋やスイカ作りなどの腕前を職員に披露している。敷地内にパークゴルフ場があり仲間同士で競う姿もある。ドライブでは白鳥見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を遣われる機会は少ないのですが、持っているだけで安心するという方も多いため、管理できる方については所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族や大切な方へ電話を取り次いだり、手紙を代筆し送るといったところまで等の対応に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を出来るだけ快適にご使用いただくため、狭くしたり障害となる物を置かないことやいつも綺麗な状態にしておくことに心がけています。ホールには季節を感じられる飾りつけ(お雛様)など利用者と一緒にしています。	事業所敷地が広大であり、戸外を楽しむ環境構成に優れている。玄関はガラス戸仕様で開放感があり、浴室に銭湯の雰囲気暖簾をかけている。共用空間は広く明るい作りでソファコーナーとダイニングコーナーがある。照明や家具も上品な設えとなっており、落ち着いた空間である。エアコンを完備し空調に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のスペースを広くとり、一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるよう表情や行動等へも注意を払い快適な空間づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談、確認しながら、居室へはできるだけ使い慣れたもの、好みのものをお持ちいただき居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	居室にはクーラー、ベッド、吊り棚、タンスが完備されている。馴染みの家具や使い慣れた調度品、お気に入りの縫いぐるみや写真、小物類などが置かれ、安心できる環境を本人と一緒に考えサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの日々の状態やその時々危険を予測していき、「できること」や「わかること」を活かし、歩行が不安定な方でも手すりを使用し安全かつできるだけ自立した生活を送れるよう努めています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームふるさとの丘

作成日：令和 3年 12月 19日

市町村受理日：令和 3年 12月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入居者様の人格や尊厳、プライバシーに配慮した声掛け等にかけていることがある。	親しみからくる、馴れ馴れしい言葉遣いや幼児語で接したりせず親しみを込めていても丁寧な言葉遣いで接する。	入居者様一人ひとりにあわせた対応ケア、その時々での体調や状況に応じた接遇スキルを身につける。不適切な言動などの対応をした際は、その都度注意をする。	6ヶ月
2	35	災害対策について	年2回日中、夜間想定の大規模火災訓練の他、地震、台風、風雪被害などの想定範囲を拡大した訓練や研修等を行う。コロナ感染予防の為消防職員の出向はなかったが、感染状況により、出向を依頼する。	どのような場面でもケア、支援出来るように、動画などで研修等を行い、職員の災害に対する意識を高め、入居者様の安全を確保する体制を整える。感染症、自然災害時におけるBCPの策定の検討を行う。	1年
3	4	コロナ感染予防のため、運営推進会議が開催されていない。書面会議等も行っていない。	感染の状況により、運営推進会議を開催する。開催されない場合は書面会議を行い、資料の送付にて開催の代替えとする。	事業所の年間の予定を策定するなかで運営推進会議を一定間隔で計画していく。感染状況により、法人本部、行政機関等と開催について協議していく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。